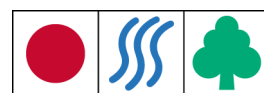


自：2024年4月1日
至：2025年3月31日



NCAJ

National Camping Association of Japan

事業報告書2024



「朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～」 富士山ロングハイク

公益社団法人 日本キャンプ協会

目 次

2024年度事業総括	1
キャンプの活動を発展させ、広めていく事業(公益目的事業1)	2
1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務	
2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営(自然体験活動実践の場の提供)	
3. 地域の関係団体との連携	
4. 青少年教育団体との連携	
5. 国内外の情報収集と提供	
6. 都道府県キャンプ協会の事業連携 ～「ビジョン 2025」4年目(実行の年)～	
7. 「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの実施	
8. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備	
9. グッドキャンパーキャンペーンの実施	
よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業(公益目的事業2)	14
1. 公認指導者養成	
2. キャンプ指導者・団体の審査・認定・更新と目標数	
3. 指導者養成のためのテキスト発行	
4. 課程認定団体研修会	
5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会・事務局担当者会	
6. 課程認定団体の増強への取り組み	
7. 指導者養成制度の改定と活用	
8. 教育現場との新たな協働	
9. 指導者会員が活動する機会の提供	
10. 安全に関する啓発活動	
11. 「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」の策定に着手	
キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業(公益目的事業3)	20
1. 第 28 回日本キャンプミーティングの開催	
2. 定期刊行物『キャンプの実践と研究』	
3. キャンプカンファレンスの開催	
法人事務	24
1. 諸会議の開催	
2. 都道府県キャンプ協会との連携	
3. 日常法人業務	
4. 各種団体への主な後援	
CAMPING AWARD 2024 受賞者	27
公益社団法人日本キャンプ協会 2024・2025 年度 役員	33
公益社団法人日本キャンプ協会 2024・2025 年度 運営委員	34
日本キャンプ協会職員・静岡県立朝霧野外活動センター職員	37

2024 年度事業総括

2024 年はコロナ禍の影響から各協会や団体、学校の活動が再開し、普通の日常生活の回復を実感できた1年であった。しかしながら、大地震や大雨による自然災害が各地で発生し、甚大な被害と多くの尊い命が奪われる悲しい出来事が続いた年でもあった。記録的な猛暑も全国各地で続き、気候変動による自然環境の変化は、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしている。また、社会的な側面では、世の中の人権意識の変容により、指導者の有り方が問われる時代になっている。あらためて「ビジョン 2025」の推進を基軸にしながら、様々な変化に柔軟に対応できる協会運営の在り方を考えさせられた1年となった。なお、永年にわたり役員として協会を牽引された、酒井哲雄名誉会長が 2024 年8月4日にご逝去されました(享年 98 才)。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

<キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業1）>

公益目的事業1は、キャンプ関連情報の発信とキャンプの実践を継続して行った。朝霧野外活動センターは、指定管理の最終年度を迎え、グループ4団体による準備を一昨年より行い、第5期の指定管理者として更新することができた。会報誌『CAMPING』や SNS を活用し、国内外に積極的に情報発信を行い、多くのユーザーを獲得することができた。キャンプ指導者のすそ野を広げるために、キャンプ愛好者にアプローチする「グッドキャンパーキャンペーン」は、講習会やイベントを活用して展開し、宣言者 1 万人を達成した。

<よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業2）>

公益目的事業2は、キャンプインストラクターの養成は、都道府県協会と一般課程認定団体の養成数が伸び悩み、1,384 名に留まった。キャンプディレクター2級の養成は、養成する団体が増えて、新規の養成数は 82 名に増加した。近年、増加傾向が続いていたキャンプディレクター1級の養成は減少に転じ、前年の 38 名より 12 名少ない、26 名に留まった。安全対策委員会が中心となり、ハラスメントの防止対策として、「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」の策定に着手した。

<キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）>

公益目的事業3は、第 28 回日本キャンプミーティングは、「つながる」をテーマに、他団体やユースに積極的に参加を働きかけ、多くの関係者が集い、活気のある事業となった。『キャンプ研究』は、より多くの実践報告を掲載するために投稿形式を変更し、『キャンプの実践と研究』に刷新した。今年度よりキャンプカンファレンスを年3回開催し、キャンプディレクターのスキルアップと交流の場を提供することができた。

<法人事務>

法人事務は、会員管理や経理業務を中心に、滞りないよう適正な運営に努めた。また、法令の改定に対応するために、規程の改定を行い、主管庁への報告を速やかに完了した。指導者の処遇や人事案件など、突発的に発生した諸問題への対応は、三役会、執行理事会、総務委員会が連携して対応を行った。依然として多くの課題を残す状況が続いているが、協会運営に関わる関係者が、一致協力して乗り越えた 1 年であった。

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業1）

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業は、キャンプに対する社会の見方が拡がりをもたらし、キャンプがもつ様々なチカラを発信し続け、キャンプの可能性や素晴らしさを社会に伝えることに尽力した。

1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌『CAMPING』の発行、Web サイト、SNS、メールマガジンなどを活用し、常に最新のキャンプ情報の収集と発信に努めた。キャンプインフォメーションセンターは、指導者派遣、テレビ番組や新聞社の取材、テレビコマーシャルの監修など、様々なニーズに丁寧な対応を行った。

（1）会報誌『CAMPING』の発行

昨年度に引き続き、独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成金事業として、会報誌『CAMPING』を年4回、季刊発行した。当年度は2023年12月に政府が「こども大綱」を閣議決定したことに伴い、子どもに軸を置き、「こどもまんなか社会」に向けてキャンプで果たせる役割は何かを考え、特集した。裏表紙は209号より「キャンプの履歴書」と題し、キャンプディレクターたちのキャンプ観や活躍を紹介する誌面にリニューアルした。

発行部数：各号 約 11,000 部

No	発行日	特 集
208	4月15日	子ども・若者の声に耳を傾ける
209	7月15日	子どもの権利を守るキャンプづくり
210	10月15日	キャンプにおけるウェルビーイング
211	1月15日	キャンプでメンタルヘルスケア



会報誌『CAMPING』

（2）Web サイト及び公式 Facebook ページ、Instagram の運用

Web サイトや SNS を活用し、国内外の最新のキャンプ情報等を積極的に発信した。会員限定ページでは会報誌『CAMPING』や都道府県キャンプ協会の会報誌を PDF で公開し、ページの充実を図った。グッドキャンパーキャンペーンはブームの沈静化に伴い、Web サイトの表示回数は前年度より約 25% 減少したが、Facebook では日本キャンプミーティングの投稿が伸び、フォロワー数が増加。2023 年度より運用を開始した Instagram は山の日に合わせたグッドキャンパーの SNS キャンペーンが伸び、リーチ数・フォロワー数ともに前年の数字を上回った。

Web サイト：<https://camping.or.jp>

Facebook ページ：<https://www.facebook.com/ncaj.sns>

Instagram ページ：<https://www.instagram.com/ncaj1966>

Web サイト表示回数：約 495,000 回

Facebook リーチ数：約 12,000 人、フォロワー数：約 2,100 人、女性：約 28% 男性：約 72%

Instagram リーチ数：約 770 人、フォロワー：数 230 人、女性：約 26% 男性：約 74%

(3) メールマガジンの配信

日本キャンプ協会の情報提供サービスの一環として、会員及びキャンプやアウトドアに関心のある一般の方に向けて、イベント情報やキャンプのノウハウなどを盛り込んだメールマガジン「CAMPING News」を定期的に発信した。購読者数は前年度に続いて増加し、累計数は昨年度比 110%となった。

発行回数：毎月第 1 金曜日発信

購読者累計数：約 27,900 人、月平均：約 2,300 人

(4) キャンプインフォメーションセンター

アウトドアブームの沈静化により、前年度と比べると、問い合わせ数はさらに減少したが、ラーケーションのように、これまでにない相談もあり、社会に貢献する一定の役割を果たすことができた。

<主な問い合わせ内容>

内容	クライアント	依頼内容
企画/助言	(株)ランブルビー	クイズ番組の問題の解答の確認
取材/出演	交通タイムス	Web サイトに指導者資格の掲載
企画/助言/指導者派遣	茨城県銚田市観光物産協会	ラーケーションの企画、助言と指導者派遣
指導者派遣	(株)ギークピクチャーズ	カップ麺 CM の火おこし
その他/相談	イオンフィナンシャルサービス(株)	イオンのクラウドファンディングの掲載
指導者派遣	東京都港区役所	研修会の講師派遣、キャンプの協力
その他/相談	日本環境マネジメント(株)	市民向けのキャンプインストラクター講習会の開催
取材/出演	ポトス出版	資格・検定ハンドブックに指導者資格の掲載
取材/出演	HUSTAR(株)	Web メディアに協会情報の掲載
取材/出演	まちだ子どもアクション	市民版子ども・子育て白書の年表に協会の掲載

対応件数：10 件

内 訳：指導者派遣 2 件、取材/出演 4 件、企画/助言 2 件、
調査/監修/執筆 0 件、その他/相談 2 件

過去 5 年間の推移 (参考)

	2020	2021	2022	2023	2024
指導者派遣	27	26	25	4	2
取材/出演	37	26	13	16	4
企画/助言	17	18	16	14	2
調査/監修/執筆	6	12	8	2	0
その他/相談	6	14	11	5	2
合計	93	96	73	41	10

2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）

静岡県教育委員会社会教育課が所管する施設である静岡県立朝霧野外活動センターを、県内の野外教育関係団体と協働し、日本キャンプ協会グループとして運営を行った。センターの第4期指定管理期間の最終年度となる2024年度は、413団体と170回の主催事業の開催により、57,669人が施設を利用した。今期は新型コロナウイルス感染症の大流行から始まり、その後の2年間は利用者が最大7割減少し、大変厳しい運営が続いた。その後利用者数は順調に回復し始めるものの、今度は小中学校の利用形態が大きく変化し1泊2日の利用が中心になったこと、人口減少によると思われる各団体の規模縮小が顕著になってきたことなど、新たな課題に直面している。そのような中でも、状況の変化に合わせた活動プログラムの提案や新たな主催事業を開催すること等を積極的に行うことで、十分な利用者数を確保することができた。施設運営も、物価高騰の影響で大変厳しい状況だったが、主催事業の積極的な開催による収入確保と支出の抑制努力により、5年間を乗り切ることができた。そのような中でも、施設の適切な維持管理や利用者の安全確保のための対応や修繕等は、その必要性を検討しつつ速やかに行うことを心がけたので、管理体制の不備による事故やけがは発生しなかった。2024年度に利用団体の活動実施中に発生した怪我は、医療機関で受診するために報告を受けたものが年間9件あった。野外炊事の際の火傷又は切傷が2件、骨折は、ウォークラリー中の転倒によるものが1件と、アイススケートの際の転倒によるものが1件、軽度の熱中症が1件、その他が3件だった。利用団体と協力しながら安全確保を行うことができ、事故やケガの発生を非常に少なく押さえることができた。主催事業は、子どもを対象とした9日間の長期キャンプと不登校児童生徒を対象としたキャンプ、大学生や社会人を対象とした野外教育の指導者養成事業を中心に開催した。野外活動の拠点施設として、様々な人を対象に自然体験活動の機会を提供し続けられるよう努めた。また、これらの取組等も評価され、2024年12月には、2025年度から5年間のセンターの指定管理者として、引き続き日本キャンプ協会グループが指定を受けることができた。

（1）自然体験活動事業（自主事業）の実施（アクションプラン1及び2）

静岡県に提案した指定管理期間(5年)の事業計画に沿って、様々な人々に向けた自然体験活動の機会を提供する。2024年度は、主に以下の3点について取り組んだ。

- ①青少年、家族、アウトドアスポーツの愛好家、野外活動の指導者等、多様な対象に向けた事業を展開し、キャンプの魅力を伝える場とすることで、キャンプ事業の創造と推進を図った。(アクションプラン2)
- ②外部評価委員会からの要望により検討を重ね、主催事業の見直しを行った。1事業を廃止し、1事業の開催方法を変更し、新規事業1事業を新たに立ち上げた。主催事業全体としての開催数は、当初の計画どおり年間18事業を維持した。
- ③大学生や小中学校の教員等、野外活動に関わる方を対象とした指導者養成事業を開催し、それぞれの事業において、キャンプの案内人の役割を担うキャンプインストラクターを県協会と連携のもと18人養成した。(アクションプラン1)

青少年自然体験事業 <主催事業>

事業名	日程	対象	参加人数
朝霧高原サマーキャンプ	7月7日事前研修会	小学5年生から	96
～つながろう富士山～	8月8日～16日	中学3年生	48

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	参加人数
野外活動プログラム実習	8月18日～19日	教員、利用団体の担当者 及び指導者	2
長期キャンプ指導者養成講習会	6月15日～16日 7月14日～15日 8月8日～16日 10月19日～20日	専門学校生、短大生、 大学生	15
野外教育指導者養成講習会	2025年 2月9日～11日	野外教育に興味のある人、 青少年団体の指導者、教育 関係者	26

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加人数
ちょっといい春感じませんか	4月27日～28日	家族・小グループ	152
あさぎりで家族とあそぼう	4月21日 7月6日 2月24日	家族・小グループ	204 185 202
ナビゲーション スポーツ・キャン プ in 朝霧	朝霧マウンテン オリエンテーリング ----- はじめてのナビゲ ーションゲーム	9月7日～8日	家族・小グループ ----- 141
ステキな秋をあなたに	10月5日、6日	家族・小グループ	331
オリエンテーリング in 朝霧	11月23日～24日	家族・小グループ	252
スケートキャンプ	11月15日～16日 ----- 12月6日～7日 ----- 1月10日～11日 ----- 1月17日～18日 ----- 2月14日～15日 ----- 3月7日～8日	家族・小グループ	35 ----- 28 ----- 50 ----- 51 ----- 52 ----- 53
プラネタリウムと星空探訪	2月28日～3月1日	家族・小グループ	86
スケートフェスティバル in あさぎり	11月4日 ----- 3月9日	家族・小グループ	109 ----- 116

施設開放事業

事業名	日程	対象	参加人数
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計50日 1,251
スケート一般開放	11月～3月の 原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計23日 3,657
朝霧カーニバル	11月10日	家族・小グループ	984
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の 水曜日又は木曜日	センター周辺の小学校(5校) に通う児童とその家族	計20日 265

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加人数
朝霧高原ホッとキャンプ	2月15日～16日	不登校児童・生徒	10
	3月15日～16日	引きこもりがちな青少年	10

自然環境保全に配慮する事業

事業名	日程	対象
走れば山が美しくなる！	通年 事業開催時	事業参加者(オリエンテーリング in 朝霧、ちよつといい春感じませんか等)



朝霧高原サマーキャンプ～つながろう富士山～(夕食づくり)



長期キャンプ指導者養成講習会(川遊び)

(2) 受け入れ事業での支援

朝霧野外活動センターを利用した社会教育団体及び学校団体は 413 団体 47,013 人であった。利用団体に対し、実地踏査や事前の利用打ち合わせも含め、それぞれの団体の利用目的や団体の状況に合わせたきめ細かい支援を行った。特に多くの学校団体において、集団宿泊的行事の担当者が、20～30代で野外活動の経験が少ない教員であることが増えた。計画の立て方や運営方法の他、実地踏査の行い方、安全管理と危機管理の方法等に不慣れな場合には個別に対応し、利用団体の実施する研修活動がより安全で効果的なものとなるようにサポートした。

利用者数の推移(施設全体・主催事業を含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	49	0	600	1,276	2,119	4,391	5,580	5,594	4,698	2,278	2,518	2,765	31,868
令和3年度	942	3,426	4,262	6,437	1,503	0	3,833	5,401	4,941	1,875	1,722	3,694	38,036
令和4年度	1,127	5,238	5,305	6,631	4,573	6,949	5,660	5,527	4,034	2,075	2,732	4,156	54,007
令和5年度	2,578	5,387	5,795	7,297	5,851	7,657	5,465	5,401	3,814	2,033	2,247	4,170	57,695
令和6年度	2,371	5,730	4,869	7,281	6,616	7,997	5,470	5,302	3,689	2,112	2,316	3,916	57,669

<本館棟>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	49	0	446	628	581	3,151	3,883	5,138	4,238	2,214	2,416	2,404	25,148
令和3年度	768	2,515	3,586	4,038	728	0	3,022	5,031	4,500	1,724	1,581	3,251	30,744
令和4年度	931	3,473	4,497	4,232	1,391	4,830	4,695	5,125	3,585	1,835	2,465	3,450	40,509
令和5年度	2,488	4,286	5,059	4,801	2,735	5,153	4,284	5,026	3,273	1,898	2,150	3,754	44,907
令和6年度	2,289	4,270	4,425	4,442	2,932	5,196	4,635	5,010	3,134	2,025	2,079	3,562	43,999

<キャンプ場>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	0	0	154	648	1,538	1,240	1,697	456	460	64	102	361	6,720
令和3年度	174	911	676	2,399	775	0	811	370	441	151	141	443	7,292
令和4年度	196	1,765	808	2,399	3,182	2,119	965	402	449	240	267	706	13,498
令和5年度	90	1,101	736	2,496	3,116	2,504	1,181	375	541	135	97	416	12,788
令和6年度	82	1,460	444	2,839	3,684	2,801	835	292	555	87	237	354	13,670

利用団体数の推移(施設全体・主催事業を含む)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	5	0	13	23	43	43	42	48	63	51	47	57	435
令和3年度	13	34	28	66	20	0	41	55	58	39	35	68	457
令和4年度	16	43	47	64	45	54	44	48	61	51	53	70	596
令和5年度	16	46	57	62	55	57	41	52	64	51	48	70	619
令和6年度	13	41	51	69	57	56	37	45	73	41	48	54	585

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	5	0	7	10	10	28	24	42	53	46	43	50	318
令和3年度	9	22	28	37	10	0	27	46	51	35	29	58	352
令和4年度	9	20	31	35	24	34	31	39	51	41	44	58	417
令和5年度	12	28	42	38	24	33	27	42	49	41	41	57	434
令和6年度	12	24	37	42	25	33	28	39	58	36	40	46	420

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	0	0	6	13	33	15	18	6	10	5	4	7	117
令和3年度	4	12	0	29	10	0	14	9	7	4	6	10	105
令和4年度	7	23	16	29	21	20	13	9	10	10	9	12	179
令和5年度	4	18	15	24	31	24	14	10	15	10	7	13	185
令和6年度	1	17	14	27	32	23	9	6	15	5	8	8	165

(3) プログラム開発

- ①センターの敷地と、隣接する富士宮市の公園を利用したスコアオリエンテーリングについて、100人以上の大きな団体が一度に活動したり、2団体が同時に実施したりできるよう1コース新設し、オリエンテーリング専用マップも作成した。
- ②雨天プログラムの選択肢を増やしてほしいとの要望に応えるため、主催事業の機会を利用して、館内で行うことができる謎解きプログラムを新たに作成した。100人程度の参加者に対して一度に提供することができたので、次期指定管理期間で利用団体に提供を開始する。
- モルックやキンボールなどのニュースポーツについて、一部物品の寄付等も受けて充実させ、天候を問わず誰でも楽しむことができる活動として、これまで以上に積極的に紹介し、活用を図った。
- ③センター内や朝霧高原各地で見ることができる野鳥と野草についてまとめた。野鳥は、館内に写真を掲示して野鳥観察の際に活用できるようにし、野草は、写真と、敷地内のどこに生息しているかを示した地図を掲載したパンフレットを作成し、利用団体に提供した。次期指定管理の提案の一つとして、より利用団体が活用しやすい教材なるよう、これらの資料をスライドにまとめ、公開できる形にした。また、敷地内の遊歩道で植物観察ができるよう、春、夏、秋それぞれの季節に合わせた小冊子を作成し、希望に応じて団体に提供した。また、これらの小冊子をもとに、短い時間で自然観察を行うことができる散策コースを設定して次期指定管理の提案とするため、環境整備を進めた。



朝霧カーニバル(グッドキャンパーキャンペーン)



朝霧カーニバル(バードコール作り)

(4) 地域との協働

- ①近隣の富士宮市立井之頭小中学校の入学式・卒業式、井之頭小学校創立 150 周年記念式典に参列したほか、隣接する富士丘地区で開催する秋の祭典(牛頭観音供養祭)に出席した。
- ②11 月に地域の住民、事業協力者、周辺施設の職員などを招き、恒例の地域懇談会を開催し、センターの運営状況を説明するとともに、センターの運営に関する意見や提言を募り、運営に活かした。
- ③センターの敷地の地権者である富士宮市の上井出財産区が設立 60 周年を迎え、その記念行事の開催に協力した。式典会場及び食事を提供したほか、記念植樹では、敷地内に、ミツバツツジなど地域に自生している広葉樹を植樹していただいた。



地域懇談会



スケートフェスティバル(11月)



野外教育指導者養成講習会



ステキな秋をあなたに(雨でもハイキング)

(5) 外部評価委員会

2024年5月10日に、2023年度の実施状況について説明を行い、これを受け、9月6日付で2023年度の評価結果が文書で通知された。併せて、指定管理第4期の期間評価も行われ、2023年度評価とともに文書で通知された。2024年度分については、2025年5月15日に外部評価委員会の視察が行われ、施設の運営状況について報告を行い、2025年9月に文書で通知される予定である。

3. 地域の関係団体との連携

青少年教育、社会教育、NPO 法人、野外教育、行政機関などの各団体と連携をはかるため、担当委員として協力を行った。

団体名	役職	担当
青少年教育5団体連絡協議会	委員	依田 智義
中央青少年団体連絡協議会世話人会	委員	依田 智義
体験の風をおこそう運動推進委員会	代表委員	平田 裕一
	委員	依田 智義
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	評議員	依田 智義
公益財団法人ハーモニセンター	監事	依田 智義

4. 青少年教育団体との連携

青少年教育団体との連携は、2025 年1月に中央青少年団体連絡協議会、社会教育団体協議会、文部科学省との共催による、新年互礼会を日本青年館において開催した。また、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟、日本 YMCA 同盟、東京 YWCA による青少年教育団体との共同事業は、7月、11 月、2月に定例懇談会を実施し、団体間の連携や団体運営の課題について協議と情報共有を行った。

5. 国内外の情報収集と提供

コロナ禍を経て定着したデジタルネットワークの活用により、国際キャンプ連盟(ICF)との情報交換や連携は引き続き活発に行われている。また、国際事業検討タスクを立ち上げ、今後の国際事業の可能性について方針を定めた。

(1) 国外情報の提供

今年度も ICF ニュースレターを Web サイトに掲載し、海外のキャンプ情報を定期的に紹介した。併せて、ICF が開催している無料の教育ワークショップ及び各国のキャンプ活動を紹介する目的で募集された動画作品についても案内した。このほか、『CAMPING』では 2023 年 10 月 31 日～11 月5日にアメリカで開催された国際会議の開催状況や参加者によるレポートを掲載し、国際的なキャンプの動向や現場の声を広く発信した。

- ・「ICF ニュースレター」の紹介（10月、11月、2月）
- ・ワークショップの紹介（5月、10月、11月、1月、3月×2回）
- ・ICF アカデミー 動画募集案内（8月）
- ・アメリカ体験教育協会（AEE）の国際会議「AEE International Conference 2023」参加報告（4月）

(2) 国内情報の海外への発信

Web サイトを通じて、日本国内のキャンプ関連情報や『CAMPING』のバックナンバー、キャンプに関する研究成果等を掲載し、広く世界に向けた情報発信に努めた。また、国際キャンプ連盟(ICF)のニュースレターでは、8月に逝去された日本キャンプ協会 酒井哲雄名誉会長について、「他者への奉仕、特に日本の青少年に貢献してきた生涯に幕を下ろした」として報告されたほか、11月に開催した第28回日本キャンプミーティングの様子が掲載され、日本のキャンプ活動の現状や発展を国際社会に伝える機会となった。

6. 都道府県キャンプ協会の事業連携 ～「ビジョン 2025」4年目（実行の年）～

「ビジョン 2025」の4年目を迎えた当年度は「実行の年」として位置付け、3年目（実行&中間見直しの年）の事業状況について都道府県キャンプ協会を対象にアンケート調査を実施した。その結果、前年度よりイベント・事業の活性化や各協会の自立が進む一方、スタッフ不足や世代交代の難しさなどが見て取れ、これらの結果をもとにアクションプランの進捗を集計・分析し、今後の事業展開に向けた指針にすることができた。

（1）アクションプラン① 人材の育成－キャンプ愛好者の拡大

人材の育成については、キャンプインストラクター養成講習会が全国各地のキャンプ協会で開催され、新たに520名の指導者を養成することができた。キャンプ愛好者へのアプローチとして2023年にスタートした「グッドキャンパーキャンペーン」では、宣言者1万人を達成した。

（2）アクションプラン② キャンプ事業の推進－新しいキャンプの創造

キャンプのチカラを活かす、「キャンプ×〇〇」による推進事業は、都道府県協会において、新たなキャンプの取り組みが定着しつつある。特に、異業種とのコラボレーションが増加し、さらに、キャンプの新たな可能性を実感する年となった。

（3）アクションプラン③ 組織基盤の強化－都道府県キャンプ協会と日本キャンプ協会の自立

組織基盤の強化については、若い会員の事業協力、助成金の申請、SNSの活用などが、多くの協会でも積極的に行われるようになり、持続可能な協会運営をめざす動きが広がりをみせている。一方で、世代交代が進まず、様々な事情により適正な協会運営が難しい協会も出ており、積極的に相談、助言を行った。

（4）ブロック別ビジョン推進事業の支援（各ブロック年1回）

「ビジョン 2025」の拡充のために、全国6つのブロックにおいて開催したビジョン推進事業の支援を行った。ビジョンの「アクションプラン」をテーマに、ブロック内の協会が協力して、地域支援イベント、各協会の事例発表や研修会の取り組みが積極的に展開された。特に、中部北陸ブロックでは、能登半島地震と奥能登豪雨災害の復興支援として、「みんなでエンジョイにここキャンプ」を開催し、能登の皆さんにエールを送ることができた。

ブロック	日程(キャンプミーティング・ブロック会議)	幹事県・主管	延べ参加人数
全ブロック	6月9日	日本協会	77
北海道・東北ブロック	11月3日～4	宮城県	27
関東ブロック	11月30日	神奈川県	12
中部・北陸ブロック	10月12日～13日	石川県	323
近畿ブロック	2月23日	大阪府	89
中国・四国ブロック	12月14～15日	岡山県	35
九州・沖縄ブロック	11月3日～4日、2月15日	沖縄県・宮崎県	66

(5) デジタル化推進への協力

各都道府県協会にメールアドレスとWebサーバーの提供を行い、都道府県協会が社会的な信用を担保し、インターネットを利用して情報発信・収集が行えるよう支援した。特に、都道府県協会が実施するリモート会議やオンライン講習会へのサポートとして、Zoom システムの貸し出しを継続して行った。また、Web サイトの更新や運用に関する相談に随時対応し、各協会が円滑に情報発信を行えるようサポートした。

・Zoom を利用した 協会の総会等:7回 その他会合等:1回 養成講習会:2回

7. 「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの実施

キャンプを安全に楽しむために毎年7月の第3日曜日を「キャンプ安全の日」と定め、夏休み期間に安全啓発キャンペーンを展開した。安全対策委員会が中心となり、特に近年増加している熱中症について傾向と予防策、処置方法等に焦点を当て、重点的に安全啓発を行った。

- ・キャンペーン期間:2024 年7月1日(月)～8月 31 日(土)
- ・キャンプ安全の日:2024 年7月 21 日(日)
- ・キャンペーンチラシの Web 配布、「安全なキャンプのために」などの小冊子の提供
- ・広報活動(Web サイト、Facebook、報道機関)の全国展開
- ・都道府県キャンプ協会での安全啓発活動

8. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

一般財団法人日本宝くじ協会の助成を受けて、都道府県キャンプ協会に多目的イベント用テントや宿泊型テントを配備した。これらのテントは、各協会が主催するキャンプや指導者講習会、各種イベントで幅広く活用されており、青少年の協調性や社会性を育む自然体験活動の場づくりに貢献している。テントは屋外で使用されるため損傷しやすく、安全で快適なキャンプ活動の継続には修繕・廃棄等を含めた定期的な更新が不可欠である。今回の配備により、より多くの参加者が安心してキャンプを体験できる環境が整備され、今後も各地で有効に活用される予定である。

配布件数:47 都道府県キャンプ協会(6種、計 74 張)



都道府県キャンプ協会に配備したテント一例

9. グッドキャンパーキャンペーンの実施

キャンプ人口の増加に伴い、各地でマナー違反や迷惑行為が問題となるなか、安全・環境・マナーに配慮してキャンプを楽しむ意識を広めるための「グッドキャンパーキャンペーン」は2年目を迎えた。特設 Web ページを通じて、「グッドキャンパーの心得8か条」に賛同した方をグッドキャンパー宣言者としてカウント。宣言者には Web 上で宣言証を発行し、賛同企業・団体による特典を提供した。また、SNS シェアキャンペーンや各都道府県キャンプ協会によるイベント・講習会、会報や Web サイトでの周知活動などの協力を得て、多様なチャンネルでキャンペーンを展開し、8月には累計1万人のグッドキャンパー宣言者を達成することができた。更なる宣言者の獲得のために、宣言者にプレゼントするステッカーを作成し、希望する都道府県協会に配布する準備を行った。

「グッドキャンパーキャンペーン」特設 Web ページ

<https://camping.or.jp/ncaj-goodcamper>

- 4月…… 「やまぐちアウトドアマップ」(スポーツフィールドやまぐち推進協議会発行)に掲載
- 6月…… 希望があった都道府県キャンプ協会に広報用のぼり旗を追加配布
- 8月…… 「#グッドキャンパー」SNS シェアキャンペーン<山の日 2024>実施
- 11月…… 第28回日本キャンプミーティングにて宣言者を募るブースを出展
- 11月…… 朝霧カーニバルにて、グッドキャンパーキャンペーンやキャンプの安全を伝えるブースを出展



朝霧カーニバルでの普及活動の様子
(静岡県立朝霧野外活動センター)

グッドキャンパーキャンペーンサポーターズ一覧 (応援団体数 36) 2025年3月末現在/順不同

公益財団法人 東京 YWCA / 公益財団法人 日本 YMCA 同盟 / 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
公益社団法人ガールスカウト日本連盟 / チャウス自然体験学校 (NPO 法人チャウス)
有限会社内原交通 / THE PLACE K シバヒロ キャンプ場 / 特定非営利活動法人国際自然大学校
一般社団法人日本オートキャンプ協会 / 自由研究教室 oranje (CABA camp) / 農 camp でんじろう
Coleman (コールマン) / ココスキラボ / ゆらきゃんぷ / ほぐし処やすらぎ屋
公益財団法人日本レクリエーション協会 / 北方温泉四季の里 七彩の湯 / Amazfit 広報事務局
株式会社ふもとっぱら / ドリーム北海道株式会社 野営ギア研究所 / 株式会社アクセル
ミワ遊び塾 / 一般社団法人美ら琉会 エルプラスクリニック / KOMOROBi Athletic&Camp
株式会社 SEEC / 株式会社 Komachi / 船場物産株式会社 / 株式会社うちなーうえぶ
有限会社ななくる / 株式会社ココ / アレックスメディア株式会社 / 株式会社アシスト
株式会社 LILUCA / YM コンサルティング / BEST 株式 / アドマイヤー株式会社

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業2）

よりよいキャンプを実現する指導者養成事業は、キャンプの楽しさを伝え、その有用性を引き出し、キャンプに参加する人々の心身の成長を導く指導者を養成する大切な事業である。18歳人口の減少により、大学や専門学校での養成数は減少傾向に歯止めが掛かりにくい。都道府県キャンプ協会や一般課程認定団体においては、講習の創意工夫をはかりながら、養成数の増員に努めた。

1. 公認指導者養成

(1) キャンプインストラクター養成講習会

課程認定校においては、新型コロナウイルス感染症で実施できていなかった授業や実習を受けた学生の4月1日認定が増えるとともに、新たな課程認定校の養成等もあり、2023年度に比べ、2024年度は養成数が増えた。また、都道府県協会・一般課程認定団体ともに、講習会の開催は多くなったが、キャンプのみならず他の活動の再開もあり、受講生の確保に課題を残した。

講習会（課程認定団体A・B・C団体による実施）

課程認定団体	養成人数
(A団体) 都道府県キャンプ協会	520
(B団体) 課程認定校(大学・短期大学・専門学校など)	666
(C団体) 一般課程認定団体(社会教育団体、野外教育団体など)	198
合計	1,384

※養成数は、2024年4月1日から2025年3月31日までの認定者数

※養成目標数 1,900人、達成率 72.8%

※2023年度養成数 1,436人、対前年比 52人減少

(2) キャンプディレクター2級養成講習会

インストラクター講習会と同時開催をすることで、カリキュラムの充実や講師の確保につなげる団体も見られた。また、新規D2養成団体による講習会の開催や少人数でも開催する団体も多くあり、昨年より多く養成することができた。

A団体による実施

主催県	日程	会場	養成人数
北海道	2024/9/21(土)～23(月祝)	札幌市青少年山の家	5
鹿児島県	2024/9/21(土)～23(月祝)	鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター	8
東京都	オンライン講習: 2024/9/24(火)・25(水)・26(木)	オンライン	7
	対面講習 10/5(土)～6(日)または 10/15(火)～16(水)	日影沢ベース	
石川県	2024/11/2(土)～4(月祝)	金沢市キゴ山ふれあい研修センター	6

大阪府	2025/1/31(金)～2/2(日)	吉野宮滝野外学校	1
沖縄県	2025/2/22(土)～24(月祝)	国頭村森林公園	4
福岡県	2025/3/7(金)～9(日)	北九州市立玄海青年の家	3
長野県	2025/3/21(金)～23(日)	ふるさとの家「となり」	5
合計			39

※2023年度 9会場:42人、対前年比3人減少

B・C団体による実施

区分	団体名	養成人数
B団体	国際自然環境アウトドア専門学校(通年)	11
	広島YMCA 専門学校(後期)	1
	日本体育大学(後期)	3
C団体	大阪YMCA【兵庫会場】7/13-15	4
	大阪YMCA【鳥取会場】9/14-16	1
	大阪YMCA【広島会場】2/28-3/2	5
	合同会社スペアタイム【東京会場】8/20.21.22.8/31-9/1	7
	合同会社スペアタイム【千葉会場】3/11.12.13.22-23	6
	福岡市キャンプ協会 11/10.11/16-17	5
	合計	43

※キャンプディレクター2級養成数は、2024年4月1日～2025年3月31日に実施された講習における登録数

※2023年度 4団体:22人、対前年比21人増加

※養成目標数(A・B・C団体) 110人、達成率74.5%

※2023年度全体養成数(A・B・C団体) 64人、対前年比18人増加

(3) キャンプディレクター1級養成講習会(日本キャンプ協会主催)

キャンプディレクター1級養成講習会と検定会は、昨年度に続き、対面形式とオンライン形式の2コースで開催した。今年度も新たに26名のキャンプディレクター1級指導者を認定することができた。

日程	受講人数	会場
11月22日～24日	10	オンデマンド講習+オンライン講習
12月13日～15日	15	対面講習(東京・オリンピックセンター)

※養成目標数 50人、達成率 50%

※2023年度 2会場:44人、対前年比19人減少

(4) キャンプディレクター1級検定会(日本キャンプ協会主催)

日程	受講人数	会場
1月25日～26日	22	対面検定(東京・オリンピックセンター)
2月8日～9日	4	対面検定(大阪・ドーンセンター)

※養成目標数 50人、達成率 52%

※2023年度 2会場:38人、対前年比12人減少

2. キャンプ指導者・団体の審査・認定・更新と目標数

資格申請者の審査・認定

資格名 認定日	キャンプ インストラクター (CI)	キャンプ ディレクター2級 (D2)	キャンプ ディレクター1級 (D1)
9/1		3	
10/1		8	
11/1		6	
11/15		8	
11/20		7	
12/10		10	
12/20		1	
3/3		1	25
3/20		3	
3/26			1
4/10		11	
4/15		2	
4/20		5	
4/30		2	
5/20		15	
合計人数	1,384	82	26
目標人数	1,900	110	50

※2023年度 D1:38人 D2:64人 CI:1,436人

指導者資格（インストラクター・ディレクター）の更新

キャンプ インストラクター(CI)	キャンプ ディレクター2級(D2)	キャンプ ディレクター1級(D1)	合計人数
3,916	1,222	921	6,059

※指導者資格更新目標数 6,070人 達成率 99.8%

※2023年度 CI:3,838人 D2:1,276人 D1:920人 合計 6,034人、対前年比 25人増加

課程認定団体数

A団体	B団体	C団体	合計
47	99	28	174

※2023年度 A団体:47 B団体:101 C団体:25 合計 173団体、対前年比 1団体増加

新規課程認定団体の審査・認定

No	区分	入会日	課程認定団体名
1	B団体	4月15日	神戸医療未来大学 健康スポーツ学部
2	C団体	4月19日	合同会社スペアタイム
3	C団体	4月23日	NPO法人 Earth Communication
4	B団体	5月8日	名古屋経営短期大学
5	C団体	7月31日	NPO法人 野外遊び喜び総合研究所

※新規課程認定団体目標数 8団体、達成率 62.5%

※2023年度新規課程認定団体 4団体、対前年比 1団体増加

賛助会員及び団体会員

No	区分	入会日	団体名
1	団体会員	11月19日	株式会社 Educare

※新規入会賛助・団体会員目標数 4 団体、達成率 25%

※2023 年度新規入会賛助・団体会員 合計 2 団体、対前年比 1 団体減少

3. 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプ指導者養成用のテキストとして、『キャンプ指導者入門第5版』、『キャンプディレクター必携第3版』の発行を継続して行った。

販売部数 キャンプ指導者入門 2,231 冊 キャンプディレクター必携 158 冊

4. 課程認定団体研修会

課程認定団体研修会は、「ビジョン 2025」の「人材の育成」をテーマに、都道府県協会、課程認定校、一般課程認定団体を対象に開催した。午前と午後の二部構成にし、午前は、事務担当向けに事務取り扱いについて、午後は、講師担当向けに指導者養成の現状報告、2024 年度の指導者養成の要点、キャンプディレクター2級養成カリキュラムの事例発表及び意見交換などを行った。

日 程：2024 年 4 月 20 日（土） 午前部 10：00～12：00 / 午後部 13：30～15：30

会 場：オンライン

参加者：午前 106 名 / 午後 92 名（会員、発表者、運営委員、役員、職員含）

5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会・事務局担当者会

都道府県キャンプ協会指導者研修会は、6月に全国から関係者が集い、「2024 年度のスタートにあたって～4 年目のビジョン 2025 を推進するために」をテーマに、ビジョンの今後の展開の可能性について学びを深めた。

また、都道府県キャンプ協会事務局担当者会を3月にオンライン開催し、2025 年度事業方針の重点施策、収支予算、ビジョン推進事業などの説明と協議を行った。

<都道府県キャンプ協会指導者研修会>

日 程：2024 年 6 月 9 日（日）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

内 容：ブロック会議

2024 年度ブロック別ビジョン推進事業

朝霧野外活動センターの運営について

次期指定管理にむけて

その他

能登半島地震復興支援、事務連絡など

参加者：77 人（会員、役員、職員含）

<都道府県キャンプ協会事務局担当者会>

日 程：2025年3月28日(金)

会 場：オンライン

内 容：2025年度事業計画・予算について

重点施策、年間スケジュール、予算

ブロック別ビジョン推進事業

指導者のための倫理ガイドライン（案）

ブロック会議

2025年度ブロック別ビジョン推進事業

キャンプディレクター2級養成講習会

次期の幹事県、ブロック理事

その他

事務連絡など

参加者：延べ73人（会員、役員、職員含）

6. 課程認定団体の増強への取り組み

課程認定団体増強の取り組みは、具体的な募集活動を実行できなかった。その結果、課程認定団体目標数の達成には至らなかった。キャンプ指導者の養成の必要性や価値を精査して、具体的な計画を立案したうえで、募集活動の取り組みを早急に行う必要がある。

7. 指導者養成制度の改定と活用

組織キャンプの指導者を養成する現行制度は、キャンプに対する社会的な価値観の変化に伴い、制度自体を見直す時期に入っている。2024年度から資格制度検討タスクを立ち上げ、変えないものと変えるべきものを慎重に見極めながら、検討を重ねている。協会の事業の柱である指導者養成が、「人づくり」を標榜する事業として、これからも多くの人に必要とされる制度となるよう、具体的な方針の確立が急がれる。

8. 教育現場との新たな協働

組織キャンプにとって、その実践の場である教育現場との連携は欠かすことはできない。しかし、様々な事情により、学校で行うキャンプは縮小傾向にあり、思うような連携を進めることができなかった。子どもの体験格差が拡がり、社会問題として顕在化している中、教育現場との連携を如何に図るべきか、具体的な行動が急がれる。

9. 指導者会員が活動する機会の提供

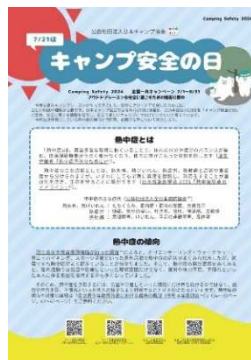
指導者会員が活動する機会の提供は、キャンプインフォメーションセンターに指導者派遣の要請があったクライアントに対し、近隣の都道府県協会に紹介を行い、協力することができた。常設の活動の場の可能性については、継続してリサーチを行う。

10. 安全に関する啓発活動

夏休み期間にキャンプを安全に楽しんでもらうために、関係団体の協力を得て熱中症の傾向と予防策、処置方法等を紹介するチラシを、安全対策委員会が中心となって作成した。Web で公開するとともに、「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンを展開し、指導者や保護者、キャンプ参加者への注意喚起を行った。キャンプ中の事故事例のデータ化をはかり、同じケースの事故防止を啓発するシステムの開発を引き続き検討した。また、Web サイトで提供をしているキャンプを安全に行うための情報(ハンドブック、小冊子)の改定と見直しに着手した。

「キャンプ安全の日」チラシのトピックス

- 熱中症とは
- 熱中症の傾向
- 熱中症予防のポイント
- 熱中症になってしまったら
- 裁判例から学ぶ熱中症への対応



「キャンプ安全の日」チラシ

11. 「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」の策定に着手

世の中のハラスメントに対する意識が大きく変容する中、キャンプ指導者においても、その対応が必然的に求められる時代が到来している。特に、昨年の6月に『子ども性暴力防止法』が制定され、児童の教育に関わる事業者や指導者は、その対策の導入を積極的に行わなければならない状況にある。こうした社会情勢を受けて、安全対策委員会が中心となり、一昨年に実施したセーフガーディングの学びを活かしつつ、「キャンプ指導者のための倫理ガイドライン」の策定に着手した。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業は、国内外で行われているキャンプの実践や研究についての調査、情報の収集、整理を行い、実践者、研究者に関係資料の提供を行った。特に、各地で行われたキャンプの事例紹介を定期大会や定期刊行物などで行い、キャンプ事業の継続と支援に努めた。

1. 第28回日本キャンプミーティングの開催

様々な団体の活動の再開を受けて、2日間の開催を見直し、1日のみの開催に日程を変更した。テーマは「つながる」とし、多くの自然体験活動・野外教育団体や活躍する指導者の協力を得て、学生を中心に、様々な分野・職種の方々が参加し、キャンプならびに自然体験の意義を確認するとともに、交流を深めた。

日 程：2024年11月9日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者：延べ143人（実行委員・発表者含）

【ワークショップ】8題

毛皮から学ぶ日本の動物学 講師：西海 太介（一般社団法人 セルズ環境教育デザイン研究所代表理事 所長／玉川大学農学部非常勤講師）
法律から考えるキャンプの「安全」と「リスクマネジメント」 講師：稲垣 尊仁（弁護士：森・濱田松本法律事務所／日本キャンプ協会 安全対策委員）
植物博士と森を歩こう 講師：中村 徹（筑波大学名誉教授／筑波大学付属坂戸高等学校 元校長／農学博士）
プロジェクトアドベンチャー(PA)体験 講師：加藤 央（株式会社 プロジェクトアドベンチャー・ジャパン アドベンチャーエデュケーション部門統括/トレーナー）
「人」とつながる 登壇者：松場 省吾（認定NPO 法人信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ 理事 子ども事業担当） 山崎 清治（NPO 法人生涯学習サポート兵庫 理事長／無人島学校 校長）
「場」でつながる 登壇者：篠原 準（千葉県公立学校教員／富山学園 南房総市立富山中学校 教諭(教務主任)） 神保 清司（南房総市大房岬自然の家所長 兼 事業部長）
「教育」でつながる 登壇者：岩野 萌（NPO法人ガイア自然学校 Chief Operating Officer） 白井 健（合同会社 くじらのもり 代表社員）／原田 順一（みんなのアウトドア 代表）
「仕事」とつながる 登壇者：佐藤 有里（NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟 理事／NPO 法人くにたち農園の会 理事） 山田 俊行（トヨタ白川郷自然学校 学校長／NPO 法人白川郷自然共生フォーラム 常務理事）
「研究」でつながる 登壇者：甲斐 知彦（関西学院大学教授／兵庫県キャンプ協会理事／日本キャンプ協会 常務理事） 西垣 幸造（公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会／尼崎市立美方高原自然の家 所長）
「成長」でつながる 登壇者：梶谷 耕一（公益財団法人 日本アウトワード・バウンド協会 長野校 校長） 下國 健人（株式会社プロジェクトアドベンチャー・ジャパン アドベンチャーエデュケーション部門：プログラムディレクター）

（敬称略）

【研究発表】 2題

<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプカウンセラーに求められる力の調査 発表者:澤近 遥希・福富 優(至学館大学)
<ul style="list-style-type: none"> ・Action Socialization Experience が大学生の自己効力感に及ぼす影響 発表者:蓬田 高正(天理大学 体育学部)

(敬称略)

【実践(取り組み)発表】 9題

<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭支援事業における研究プロジェクト-持続可能な普及と発展を目指して- 発表者:徳田 真彦(大阪体育大学)／原田 順一(一般社団法人 日本アウトドアネットワーク)／吉松 梓(明治大学)／向後 佑香(筑波技術大学)
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の山を活用した野外生活体験の実践報告～K大学の野外活動実習での取り組み～ 発表者:櫻木 規美子・黒崎 辰馬・近藤 亮介(神戸医療未来大学)／山口 貴士・山口 奈央(株式会社 OFFICE KAJIYANO)／喜多 宏高(中はりま森林組合)
<ul style="list-style-type: none"> ・長期キャンプへの継続的参加要因を探る 発表者:加藤 晃也(国士舘大学大学院)／永吉 英記(国士舘大学)／山崎 源太(国士舘大学・多摩市教育委員会)／田中 クララ(国士舘大学 ウェルネス・リサーチセンター)
<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ中のヨガプログラム実践における「ゆらぎ」が及ぼす健康的効用 発表者:田中 クララ(国士舘大学ウェルネス・リサーチセンター)／山崎 源太(国士舘大学)／加藤 晃也(国士舘大学大学院)／永吉 英記(国士舘大学)
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」『教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業』希望が丘夏休みわんぱくキャンプの実施結果の普及 発表者:豊田 博(公益財団法人 滋賀県希望が丘文化公園)
<ul style="list-style-type: none"> ・東京家政学院大学「森のようちえん」～キャンパス内の森、大公開!!～ 発表者:久保田 真実・佐藤 冬果(東京家政学院大学 児童学科)
<ul style="list-style-type: none"> ・日本体育大学のキャンプ実習での学生スタッフの役割 発表者:石濱 里実・伊田 篤史・坂村 空奏(日本体育大学 野外スポーツゼミ)
<ul style="list-style-type: none"> ・大学キャンプ実習に向けたトレーニングキャンプ～学生スタッフの技術研修とチーム力の向上について～ 発表者:宮崎 愛・磯 裕之介・渡邊 祥乃(日本体育大学 野外スポーツゼミ)
<ul style="list-style-type: none"> ・学生と教員が一体となり作り上げる夏のキャンプ実習～7つのプログラム体験～ 発表者:川上 晴規・下崎 光希(日本体育大学 野外スポーツゼミ)

(敬称略)



チラシ



抄録集

(協力団体)

日本野外教育学会、NPO 法人自然体験活動推進協議会、(一社)日本アウトドアネットワーク、JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会、NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟、(公財)日本アウトワード・バウンド協会、(株)プロジェクトアドベンチャージャパン、NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会、NPO 法人海に学ぶ体験活動協議会、

Social Active Network of outdoor education

(後援団体)

(一社)日本インタープリテーション協会、NPO 法人エコツーリズムセンター

2. 定期刊行物『キャンプの実践と研究』

1997年の創刊以来、キャンプや野外教育に関する研究論文や実践報告を広く共有する場として発行してきた『キャンプ研究』は、『キャンプの実践と研究』へと誌名を改め、規程および投稿フォーマットを大幅に刷新した。多様な視点から新たな知見や実践例を発信するため、原稿種別にはこれまでの研究論文、実践報告に加え、新たに研究ノート、実践紹介を設けた。第28巻には研究論文3編、実践紹介4編の計7編を掲載している。なお、当該巻より環境への配慮および費用削減の観点から紙媒体を廃止し、PDF版のみの発行とした。会員だけでなく一般にもWebサイト上で公開し、キャンプや野外教育に関心を持つ幅広い層に向けて、最新の知見と実践例を提供した。

発行日：2024年3月31日

媒体：PDF版

Webサイト公開 <https://camping.or.jp/archive/data>



『キャンプの実践と研究』第28巻

研究論文

デジタル技術を用いた野外教育の新たな試み (甲斐 知彦)
野外炊飯計画のための食材カードゲーム開発 (山下 玲香)
東京児童指導者会主催の「共同キャンプ」 (中島 豊)

(敬称略)

実践紹介

大学体育におけるASEの活用 —「身体運動科学」授業の実践紹介— (折居 巧朗・窪田 辰政)
ナイト・デイキャンプ —設立2年目、初めての企画・運営を通して— (竹園 明日香)
小中学校連携キャンプ教育の実践と教育効果の検討 —いかだづくり活動を通じた協働学習の影響— (小泉 岳央・永末 大輔・下永田 修二)
中学校におけるキャンプの実践と教育的効果の検討 —総合的な学習の時間(探究)での自然体験活動の役割— (小泉 岳央・岩波 秀平・下永田 修二)

(敬称略)

3. キャンプカンファレンスの開催

キャンプディレクター1級と2級指導者の新たな学びと研鑽の場として、キャンプ×〇〇をテーマにしたキャンプカンファレンスを新たに年3回オンラインで実施した。

<第1回>

日 程：2024年6月26日(水) 19:00～21:00

テーマ：これからの自然の家 ～持続可能な自然の家について考える～

登壇者： 倉敷市自然の家 YMCA せとうち 白鳥 雅人
 尼崎市立美方高原自然の家 日本アウトワード・バウンド協会 西垣 幸造
 熊本市立金峰山自然の家 熊本市教育委員会 寺崎 真治

参加者：67人

<第2回>

日 程：2024年10月9日(水) 19:00～21:00

テーマ：ビジネスに生きるキャンプの力 ～なぜキャンプ・自然体験なのか？～

登壇者： 一般社団法人 Teenager Business Association 山田 翔吾
 株式会社 ライジング・フィールド 森 和成

参加者：38人

<第3回>

日 程：2025年1月9日(木) 19:00～21:00

テーマ：「キャンプと若者～こどもがまんなかの社会づくりを若者自身の力で！若者が作る
子ども向けキャンプ事業の事例を学ぶ・深める～」

登壇者： 一般社団法人地域・社会子育て若者支援 代表理事 石川 大晃
 淑徳大学ボランティアサークル BLOOM 代表 小川 優心
 淑徳大学ボランティアサークル BLOOM 元代表 高村 真砂
 東京国際大学ボランティアサークル TRYAND 代表 鎌田 啓司
 高校生 YUME プロジェクトチームピラム(西武学園文理高等学校インターアクト部) 川崎 紅羽

参加者：27人

(敬称略)

法人事務

2024年度は、2年に一度の役員・委員の改選期にあたり、将来を展望しながら、新たな組織体制の再編を行った。運営委員会等の会議体の一部を見直し、事務局との連携を強化して、事業活動やイベントなどの運営がスムーズに行われるように改善を図った。様々な事情により、活動に支障が生じている都道府県協会に対しては、ブロック理事と情報を共有しながら助言や支援を積極的に行った。また、2025年4月1日に施行される公益法人制度の改正について、セミナーに参加し理解を深めた。

1. 諸会議の開催

会議名	回数	日程
定時社員総会	1	6月8日
理事会	4	5月24日・6月8日(臨時)・11月28日(臨時)・3月14日
監査	14	5月22日(監事)・毎月1回(税理士事務所)
三役会	11	4月18日・5月17日・6月24日・8月28日・9月20日・10月21日・ 11月18日・12月18日・1月22日・2月6日・3月12日
執行理事会	8	4月26日・5月27日・7月8日・9月30日・10月24日・11月25日・ 12月23日・1月28日
全体運営会議	3	9月3日・11月20日・2月13日

運営委員会等

会議名	回数	日程
CAMPING 編集委員会	3	4月5日・10月3日・12月6日
指導者養成委員会	3	9月17日・1月15日・3月31日
ビジョン推進委員会	3	5月10日・9月18日・3月10日
ブロック連携委員会	2	12月16日・3月21日
総務委員会	3	9月25日・11月13日・1月31日
安全対策委員会	3	6月4日・2月14日・3月26日
研修・研究委員会	1	1月27日
キャンプミーティング実行部会	6	7月26日・8月19日・10月11日・10月29日・ 12月19日・3月10日
キャンプカンファレンス部会	4	4月23日・7月11日・8月5日・2月28日
朝霧運営委員会4団体代表者合同会議	1	6月28日
正会員候補者推薦委員会	2	4月24日・5月22日
役員候補者選考委員会	2	4月1日・5月14日
事務局会議	9	4月17日・5月16日・6月20日・7月18日・ 8月21日・9月24日・11月7日・11月21日・ 1月16日

その他の会議、研修等

会議名	回数	日程
青少年教育5団体連絡協議会	3	7月4日・11月8日・2月26日
中央青少年団体連絡協議会世話人会	3	4月18日・10月17日・1月29日(新年互礼会)
文部科学省と中青連世話人会との意見交換会	1	6月21日
体験の風をおこそう運動推進委員会	1	7月11日
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	2	5月24日・1月24日
公益財団法人ハーモニセンター	3	5月21日・6月14日・3月20日

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程
県立青年の家等所長会	5	4月11日・5月1日・9月13日・12月17日・3月7日
静岡県青少年教育施設協議会所長会	4	4月11日・6月11日・11月19日・2月5日
県立青年の家等主席会	4	5月20日・7月19日・11月27日・3月10日
安全対策委員会	2	6月18日・1月9日
外部評価委員会	1	5月10日
全国青少年教育施設所長会議	—	欠席
東海北陸地区青少年教育施設協議会職員研修大会	1	12月11日～12日(三重県立鈴鹿青少年センター)
静青協職員研修会	1	1月30日～31日(静岡県立焼津青少年の家)
社会教育実践研修	1	10月3日～4日(もくせい会館)
県立青少年教育施設指導者養成関連事業担当者会	1	3月5日(静岡県庁)
常葉大学教職大学院連携協力協議会	2	4月22日、2月20日(常葉大学)
常葉大学教育学部社会教育実習連絡協議会	1	1月29日(常葉大学)
地域懇談会	1	11月1日
食堂定期協議会(打合せ)	9	4月21日・7月21日・8月22日・9月26日・10月18日・10月23日・1月12日・1月31日・2月2日

2. 都道府県キャンプ協会との連携(公1-6・7・8・9、公2-1・2・5)

都道府県キャンプ協会と日本キャンプ協会が共に自立をすることめざし、ビジョン2025のアクションプランの推進のために、ブロック内の連携の支援と事業活動への協力を行った。

- ・キャンプ指導者養成講習会の支援と協働
- ・会報同封サービスの提供
- ・デジタル化推進への協力
- ・ブロック別ビジョン推進事業の開催と支援(ブロック会議含)
- ・「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの展開

- ・キャンプ用品・用具の配備
- ・都道府県キャンプ協会指導者研修会・事務局担当者会の開催
- ・Monthly Report の発行(11回)
- ・グッドキャンパーキャンペーン

3. 日常法人業務

会員管理を担当する職員を新たに一人採用し、会員更新の事務処理や入退会者の対応業務等を円滑に進めることができた。引き続き、予算管理と支出の抑制に努め、助成金の獲得と活用を行い、収支のバランスに注力した、法制度の改定に伴い、諸規程の一部改定を行った。

<法人事務の主な業務>

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／助成金事務／人事管理／諸規定の整備／内閣府への各種報告／他団体との渉外窓口

4. 各種団体等への主な後援

団体名	事業名	種別
奈良県吉野町	ネットを考える合宿「オンラインキャンプ in 吉野」	後援
アウトドアチャレンジ協議会	親子deアウトドアチャレンジ東京	後援
日本体育大学社会貢献推進機構	日本体育大学公開講座 「楽しく安全なキャンプ講座」	後援
自然体験活動推進協議会	CONE(自然体験活動推進協議会)シンポジウム	後援
日本 YMCA 同盟	能登半島地震被災地支援 YMCA リフレッシュキャンプ	後援
公益財団法人 修養団	SYD ボランティア奨励賞(第19回)	後援
公益財団法人 修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
公益財団法人 修養団	幸せの種まきキャンペーン	後援
公益財団法人 修養団	子ども自然体験キャンプ《全国6会場》	後援
公益財団法人 修養団	全国青年アカデミーキャンプ	後援
公益財団法人 修養団	全国青年ボランティアの旅 in 東北	後援

CAMPING AWARD 2024 受賞者（16人、2団体）

粥川 道子 様

北海道キャンプ協会 顧問

1992年、道内のキャンプ指導者の有志と共に北海道キャンプ協会を設立。協会の要職を担い、指導者養成のほか、ジャパン・キャンプアクセスやシニアキャンプ大会など、全国規模の事業を北海道開催に導くなど、創成期の事業実施や組織基盤づくりにご尽力されました。また、大学教員として野外教育やキャンプの理論と実践を学生たちに伝える傍ら、日本キャンプ協会の指導者養成や安全管理の専門委員を歴任されました。

2015年から4期8年に亘り北海道キャンプ協会会長を務められ、事業部門を担う若手指導者グループ（えぞっふ）の育成、協会組織に新たにユース育成部を設置するなど、後身の育成を根幹にした持続可能な組織の在り方を追求されてきました。現在も協会の顧問として、キャンプの普及と発展に手腕を発揮されています。

（推薦団体：北海道キャンプ協会）

澤村 憲照 様

岩手県キャンプ協会 事務局長

当協会の設立時より関わり、協会の発展に尽力されました。特に当時の事務局長が急遽退任した際には、理事長と事務局長を兼務しながら協会を支え、講習会の企画や外部との連絡調整を行うほか、内部の人材を活用し財政を適切に運営するなど、協会員から厚い信望を集める仕事ぶりを発揮されました。

2011年の東日本大震災後には、県内の野外活動の6団体と共に「アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会」の実行委員長として組織をまとめ活動。グリーンケアや心の復興に貢献するため被災地の子どもたちを招き、2011年から2015年まで毎年、岩手山のふもとでキャンプを実施されました。さらに2012年からは被災地などで「遊びの広場」を開催。子どもと家族、合わせて約5,000人が自然と触れあう野外遊びを楽しみました。その活動が認められ、2019年12月に内閣府より「チャイルド・ユースサポート章」を受賞されました。今までの実践活動からキャンピングアワードに強く推薦いたします。

（推薦団体：岩手県キャンプ協会）

藤村 由喜 様

一般社団法人 宮城県キャンプ協会 監事

藤村由喜氏は1998年10月17日の宮城県キャンプ協会設立以降、理事として協会運営に携わり、現在は監事として協会運営を支えておられます。キャンプインストラクター養成講習会ではロープワークやテント設営・撤収を担当し、丁寧な指導で人材養成に力を注がれています。また、協会主催の普及事業ではマネジメントスタッフとして事業運営を支え、事業スタッフの育成を行っておられます。宮城県キャンプ協会が一般社団法人に移行する際には、設立準備委員として諸規定の作成に努められました。その後、2013年12月17日の一般社団法人移行後も理事として活動を継続し、現在も人材養成・人材育成に尽力していることは多大な功績と認められます。

（推薦団体：一般社団法人 宮城県キャンプ協会）

菅原 弘一 様

秋田県キャンプ協会 役員・理事

キャンピングネーム「ぶんさん」こと菅原弘一氏は、理事として長年にわたり秋田県キャンプ協会の運営を支えるとともに、キャンプの普及発展に貢献されております。

協会事業ではファミリーキャンプやスノーキャンプでクッキング担当として手腕を発揮し、その卓越した技術・味・アイデアは素晴らしいものがあります。スノーキャンプでは、子どもたちから「ぶんさん、美味しかったよ」と笑顔で絶賛されております。特に、氏のトマトごはんとロールケーキは絶品で協会のみんなに人気があります。ロールケーキは「ぶんロール」と愛称が付き、取り合いが起こるほどです。そのほかキャンプギアにも精通しており、メンテナンスはもちろん調子が悪い時も相談すると解決していただけます。氏の使っているギアは長年愛用しているにもかかわらず、どれもとてもきれいで驚かされます。また、とても人柄も良く老若男女、誰からも親しまれとても頼りにされており、今後も協会の重鎮としてますますの活躍が期待される存在です。

(推薦団体:秋田県キャンプ協会)

米満 志奈子 様

一般社団法人 茨城県キャンプ協会 理事

茨城県キャンプ協会の連携団体である茨城県シェアリングネイチャー協会の事務局長である米満氏は、本協会において自然体験活動のネイチャープログラムを担当され、野外活動の企画推進に大いに寄与されました。

1997年にガールスカウトトレーナー、2010～2017年にはガールスカウト戸隠キャンプ場ディレクターという豊富な実践経験から、本協会の理事として協会事業の方向性を導く助言をいただきました。

本協会が主催する事業にとって、シェアリングネイチャー協会との連携活動は主たるアクティビティの一つとなっており、多くの活動実績があります。協会として、さらにその見識をご教示いただきたいと強く願っています。

(推薦団体:一般社団法人 茨城県キャンプ協会)

ボーイスカウト日本連盟 那須野営場 様

栃木県キャンプ協会 団体会員

栃木県キャンプ協会が力を注いでいるキャンプ指導者養成事業「キャンプアカデミー」で、講習会場としてきたのがボーイスカウト日本連盟 那須野営場です。野営場の利用は2011年より8回を数え、2019年にはD2養成講習も開催しました。多くのキャンプ指導者がここで育ち、協会事業をはじめ県内外で活躍しています。

野営場は豊かな自然が保たれた広大な敷地の中に、宿泊研修施設や野外活動施設が自然に溶け込むように効率よく配置されており、多様な講習や実習ができる最適なフィールドとなっています。

野営場の場長さんからは、講習会スタッフはもとより受講者にもその知見に満ちた助言をいただき、指導者の育成にお力をいただいています。

(推薦団体:栃木県キャンプ協会)

金子 和正 様

NPO 法人 埼玉県キャンプ協会 元会長

2011年度から NPO 法人 埼玉県キャンプ協会の会長に就任以来11年間、協会運営の中心となってキャンプ活動の普及と発展に大きな改革をなさいました。

指導者養成では講師として最新情報を提供されたほか、会員交流のキャンプでは一人ひとりの会員に温かく接するなど、機会を見つけては「キャンプの知」について熱く語っていただきました。また、大学在職中には、日本協会の広報誌の編集委員長をはじめ様々な団体の要職を務め、野外教育関連書籍の執筆・監修などに携わられました。特に、幼少期における豊かな自然体験の必要性を提唱され「森のようちえん」を設立し、組織的、継続的、実践的に研究をなされた豊富な経験は、生涯学習の世界にたくさんの貴重な示唆を与えました。現在も自然体験の意味と価値について研究なさっており、キャンプ協会の理論的支柱として大きく貢献されています。

(推薦団体: NPO 法人 埼玉県キャンプ協会)

鶴岡 義久 様

NPO 法人 千葉県キャンプ協会 副会長

小中高時代に YMCA キャンプを経験、大学時代は YMCA ボランティアリーダーとして活動し、卒業後は OB リーダーとして後輩のキャンプリーダーの育成にも関わられました。その後、会社員を経て千葉 YMCA に入職後は、職員としてキャンプとさらに深く広く関わるようになられました。特に、施設管理運営を受託した千葉市少年自然の家では開設当初からのスタッフとして今年で 20 年、この間に千葉県下の青少年相談員講習会講師なども担当するなど、今や名実ともに同自然の家の中心的なエキスパート職員として活躍しておられます。

NPO 法人 千葉県キャンプ協会理事にも就任され、現在は副会長という重責を担いつつ、協会運営に精力的に取り組んでおられます。なお、得意技のインシアチブゲームを用いたグループワークには定評があり、キャンプを通した子どもたちの成長を願って活動を行っておられます。

(推薦団体: NPO 法人 千葉県キャンプ協会)

藤野 和子 様

神奈川県キャンプ協会 副会長

1973 年に埼玉県でボーイスカウトに関わり、副長として青少年キャンプなど野外活動に携わってこられました。その後、青少年指導員として地域の父母たちの支援を得て、子どもたちとのキャンプ活動の場を横浜市の施設や道志村キャンプ場を中心に展開されました。国連の国際青年年を機に行った「青少年交流キャンプ」では野営長を務め、この活動は 30 周年を迎える現在も横浜市の「赤城林間学園」で行われております。

1982 年には国立青少年育成センターが開催した 20 日余の研修に横浜市の推薦で参加され、英国の学校教育や移民教育、地域教育といった青少年育成の現場や野外活動の見聞を深められました。こうした広範囲な経験を重ね、県キャンプ協会の理事として活動する傍ら、勤務先の福祉系専門学校では人間関係論に野外活動(キャンプ)を取り入れるなど、人材育成に力を尽くしてこられました。近年は神奈川県キャンプ協会の副会長としてキャンプ・野外自然活動の振興に尽力され、その手腕を発揮されるなど、神奈川県キャンプ協会への貢献度は多大なものがあります。

(推薦団体: 神奈川県キャンプ協会)

伊藤 光太郎 様

NPO 法人 東京都キャンプ協会 理事

伊藤氏は東京都キャンプ協会の理事(副理事長職含む)を長きに渡り務められており、現在も協会運営・発展に優れたリーダーシップを示しておられます。その中でも特筆すべき点は、コロナ禍での指導者養成講習会にメディア講習を取り入れたことが挙げられます。現在でこそオンデマンドやオンライン講座が普通ではありますが、指導者養成講習会に本手法をはじめ取り入れたパイオニアであります。この講習スタイルは現在も発展しながら脈々と続けられ、全国にも波及していることと思います。

これらのことから伊藤氏の活動は東京都キャンプ協会のみならず、日本のキャンプ業界の発展に多大な貢献が認められます。改めて感謝と尊敬の念を表します。

(推薦団体:NPO 法人 東京都キャンプ協会)

佐野 郁雄 様

石川県キャンプ協会 理事長

金沢市教育委員会主催の野外活動指導員養成講座にて、日本キャンプ協会公認初級指導者、中級指導者(当時)を取得され、活動を通して石川県キャンプ協会の運営に携わるようになりました。野外活動指導員と協会との橋渡し役となり協会の拡大、発展に尽力されました。このことは「全国キャンプ大会 in いしかわ」開催にあたり、様々な団体のスタッフ招集に大きく貢献され成功へと導くことが出来ました。

また、広報部副部長として広報部長を支え、協会初の広報誌を発行し、現在の広報誌の礎を築かれました。2017年より理事長に就任し、協会全体の運営を行いながら、積極的にスタッフ参加し、若手スタッフからは「裏方のスペシャリスト」と呼ばれ厚い信頼を集めています。若手スタッフが積極的に活動したくなる協会作りを目指し、協会発展にますますの活躍が期待される存在です。

(推薦団体:石川県キャンプ協会)

上原 貴夫 様

長野県キャンプ協会 顧問

上原氏は長野県キャンプ協会の1998年発足当初から副会長を務め、2004年から2023年まで長野県キャンプ協会会長として、長きにわたって長野県キャンプ協会を牽引されてきました。上原氏は長野県短期大学・上田女子短期大学教授として、1995年より現在まで不登校児童・生徒や障がいのある小中学生のキャンプを大学生と実践され、これらの取り組みの成果等をキャンプ・ミーティングほか関係学会で研究発表されてきました。

同時に、こうしたキャンプの指導を担う大学生を対象に、キャンプインストラクター養成講習会を自ら主催し人材育成にも尽力されています。また、日本自然保育学会の元会長として、幼児期の自然体験活動の充実にも注力されるなど、長野県はもとより我が国のキャンプ活動の進展に多大な貢献をされてきました。

(推薦団体:長野県キャンプ協会)

江本 豊久 様

愛知県キャンプ協会 参与

江本氏は2017年から愛知県キャンプ協会理事2年、その後、参与5年と愛知県キャンプ協会の運営に携わっていただいています。また、釣りなど海浜型アクティビティの指導者として愛知県キャンプ協会の諸事業の講師、大学の野外教育関連の実習の非常勤講師の経験も豊富にあります。

愛知県キャンプ協会の役員として運営に携わっていただく前から、「あいちキャンプフェスタ」のアクティビティ講師として貢献いただくほか、本業である釣具店の代表取締役として、「あいちキャンプフェスタ」等のイベント型事業においてアウトドア物品の協賛品の提供をしていただいています。以上により、愛知県キャンプ協会の発展に多大な貢献をしていただいているため、CAMPING AWARD の表彰者として推薦いたします。

(推薦団体:愛知県キャンプ協会)

濱野 一彦 様

京都府キャンプ協会 理事

公益財団法人青少年野外活動総合センターに所属し、京都府南部地域を拠点に組織キャンプを通じて長らく子どもたちの成長に携わり、子どもに関わる青年指導者の育成にも積極的に取り組んでこられました。

また、京都府キャンプ協会へは1985年に入会後、約40年の長きにわたってキャンプの普及や指導者養成にもご尽力くださり、現在も理事のほか、事業委員並びに指導者養成委員として例会やインストラクター養成講習会にも参加され、協会運営にも欠かせない存在としてご活躍いただいています。

(推薦団体:京都府キャンプ協会)

公益財団法人大阪ユースホステル協会 様

大阪府キャンプ協会 団体会員

公益財団法人大阪ユースホステル協会は日本におけるユースホステル運動の先駆であり、国内で最初に支部が設立され、それ以来60年以上に亘り日本において、また大阪において若者の安心安全な活動の場の提供に努められ、自然体験・野外活動の機会提供や指導者養成に継続して務められている社会教育団体です。

大阪府キャンプ協会においては協会設立当初より役員を担われ、また団体会員として、永年、組織の一員として大阪におけるキャンプ活動の推進・普及に参画されておられます。平成に入り、府立少年自然の家等の指定管理業務を担われるなど、様々な事業展開を通じ、大阪のキャンプ・野外活動の発展に寄与されておられます。

(推薦団体:大阪府キャンプ協会)

新庄 和文 様

兵庫県キャンプ協会 理事

兵庫県ユースホステル協会や兵庫県青年洋上大学同窓会の事務局長として長年、青少年育成活動にボランティアとして参画、その経験を活かし、兵庫県キャンプ協会では後継者育成や事業活動の推進に貢献してこられました。現在ではさらに、認定NPO法人シニア自然大学幹事として、シニア世代の自然体験活動の企画と実際を推進する活動にも積極的に取り組まれています。

(推薦団体:兵庫県キャンプ協会)

瀬沼 健 様

高知県キャンプ協会 会長

学生時代、高知県初の長期キャンプのリーダーを務められるなど、高知県のキャンプ黎明期より青少年育成に精力的に携わられております。高知県教育委員会生涯学習課に勤務された際には、県内の自然体験活動団体や青少年教育施設の連携を図り、乳幼児と親のキャンプ、幼児の宿泊キャンプなどを早期より実施し、キャンプの可能性を広められました。また、全国の民間団体とも連携を図り、高知県の自然体験活動の技術や地位向上に努められました。その後、国立室戸青少年自然の家次長、公立中学校長等を歴任されながら、高知県キャンプ協会の会長として指導者養成活動にも尽力され、「自然体験活動の裾野を広げ、自然豊かな高知県だからこそできる質のよい体験を、より多くの人々に届けたい」を信条に、日々活動されています。

(推薦団体:高知県キャンプ協会)

垣迫 秀明 様

大分県キャンプ協会 副会長

日本シェアリングネイチャー協会の指導者を手始めに、ここ数年は年間30数回程度のソロキャンプをされています。ファミリーキャンプ時代と違い静かな、しかも景観の良い場所でのキャンプ地を探しては日中、夕暮れ、朝と24時間自然を体験できるキャンプを楽しんでおられます。大分県キャンプ協会設立時から監事を引き受けていただき、その後当協会理事を2006年から、また2018年からは副会長として現在までご尽力をいただいています。キャンプ実践者として初心者キャンプや不登校児支援のデイキャンプ、さらに本人自身の生き甲斐となっているソロキャンプを風雨をものともせず年間を通じて実践中です。得意な事象として、SNSを通じてキャンプ飯レシピ、キャンプグッズ紹介、また使用・効能・効果等を逐一発信されています。今後も大分県キャンプ協会を支えて貰える大切な技能キャンパーです。

(推薦団体:大分県キャンプ協会)



受賞者の皆様(一部)

公益社団法人日本キャンプ協会 2024・2025 年度 役員

(所属・役職は2024年3月31日現在)

名誉会長	酒井 哲雄	頌栄保育学院 元理事長	※2024年8月4日逝去
顧問	富岡 幸生	(一財)日本健康開発財団 元専任講師	※2024年10月18日逝去
顧問	野間口英敏	東海大学 元教授	
顧問	長谷川純三	(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長	
顧問	野澤 巖	埼玉大学 元教授	
顧問	永吉 宏英	大阪体育大学 元学長 大阪府キャンプ協会 会長	
顧問	石田 易司	桃山学院大学 元副学長 大阪府キャンプ協会 副会長	
顧問	星野 敏男	明治大学 名誉教授	
顧問	神崎 清一	(公財)日本YMCA同盟 元総主事 京都府キャンプ協会 会長	
顧問	高見 彰	関西国際大学 教授 兵庫県キャンプ協会 会長	

会 長(代表理事)

	平田 裕一	至学館大学 副学長	
副会長	藤枝 隆	東京農業大学 入学センター 参与	
副会長	中村 正雄	大東文化大学 教授 埼玉県キャンプ協会 副会長	
専務理事	今井 正裕	(一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室 室長	
常務理事	野口 和行	慶應義塾大学 教授	
常務理事	甲斐 知彦	関西学院大学 教授	
理 事	鈴木 由美	女子美術大学 非常勤講師	
理 事	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ、(一社)SATOYAMAそだち代表理事	
理 事	下川原清貴	北海道キャンプ協会 常任理事	
理 事	吉松誠一郎	佐賀県キャンプ協会 副会長	
理 事	青木康太郎	國學院大學 教授	
理 事	秋山 和沙	(公社)ガールスカウト日本連盟 副会長	
理 事	大久保秀人	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長	
理 事	大久保智子	(公財)東京YWCA 青少年育成事業部 統括責任者	
理 事	佐藤 誠	北海道・東北ブロック (一社)宮城県キャンプ協会 会長	
理 事	佐藤 繁一	関東ブロック (特非)東京都キャンプ協会 理事・事務局長	
理 事	田丸 千佳	中部・北陸ブロック 石川県キャンプ協会 事務局長	
理 事	三木 秀人	近畿ブロック 兵庫県キャンプ協会 副会長	
理 事	小椋 聖也	中国・四国ブロック 岡山県キャンプ協会 事務局長	
理 事	村上 彰一	九州・沖縄ブロック 長崎県キャンプ協会 理事長	

以上20名

監 事	小田原一記	(公財)日本レクリエーション協会 専務理事・事務局長
監 事	平野 吉直	信州大学 名誉教授
監 事	田口 努	(公財)日本YMCA同盟 総主事

以上3名

公益社団法人日本キャンプ協会 2024・2025年度 運営委員

(所属・役職は2025年3月31日現在)

執行理事会

役 職	氏 名	役職・勤務先役職
会 長	平田 裕一	代表理事 / 至学館大学 副学長
副 会 長	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学入学センター 参与
副 会 長	中村 正雄	業務執行理事、公2担当理事 / 大東文化大学 教授
専務理事	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室室長
常務理事	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学 教授
常務理事	甲斐 知彦	業務執行理事 / 関西学院大学 教授
理 事	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
理 事	青木 康太朗	國學院大學 教授
総務委員	神谷 稔	(公財)日本アウトワード・バウンド協会 理事
所 長	井出 暢一	静岡県立朝霧野外活動センター

全体運営会議(正副委員長)

会 長	平田 裕一	代表理事 / 至学館大学副学長
公1 正	今井 正裕	業務執行理事 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室 室長
公1 副	甲斐 知彦	業務執行理事 / 関西学院大学 教授
公2 正	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
公2 副	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
公3 正	野口 和行	業務執行理事 / 慶應義塾大学 教授
公3 副	青木 康太朗	國學院大學 教授
法総 正	藤枝 隆	業務執行理事 / 東京農業大学入学センター 参与
法総 副	下川原 清貴	北海道キャンプ協会 常任理事 / (特非)コミュニティワーク研究実践センター 副センター長
法総 副	吉松 誠一郎	佐賀県キャンプ協会 副会長 / (株)マベック

(公1)ビジョン推進委員会(グッドキャンパーキャンペーンタスク含む)

委員長	今井 正裕	業務執行理事 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室 室長
副委員長	甲斐 知彦	業務執行理事 / 関西学院大学 教授
委 員	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
委 員	高見 彰	日本キャンプ協会顧問 / 関西国際大学 教授
委 員	吉松 誠一郎	佐賀県キャンプ協会 副会長 / (株)マベック
委 員	田丸 良明	石川県キャンプ協会 事務局次長
委 員	田中 廣喜	NHK仙台放送局

(公1)CAMPING 編集委員会

委員長	今井 正裕	業務執行理事 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室室長
副委員長	甲斐 知彦	業務執行理事 / 関西学院大学 教授
委 員	翠尾 由美	港区立麻布子ども中高生プラザ 副館長
委 員	山梨 雄一	東京YMCA社会体育・保育専門学校 校長
委 員	山本 直輝	(公財)ハーモニセンター 理事・事務局長補佐
委 員	吉松 梓	明治大学 准教授

(公1)朝霧野外活動センター運営委員会

委員長	星野 敏男	日本キャンプ協会 顧問 / 明治大学 名誉教授
委員	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
委員	井出 暢一	朝霧野外活動センター 所長
委員	齋藤 祐幸	朝霧野外活動センター 副所長
委員	太田 正義	朝霧野外活動センター コーディネーター
委員	櫻井 良樹	朝霧野外活動センター 事業課長

(公2)指導者養成委員会

委員長	吉田 理史	(株)SOUP スタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
委員	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学 非常勤講師
委員	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
委員	渡邊 仁	筑波大学 体育系 助教
委員	伊原 久美子	大阪体育大学 教授

(公2)安全対策委員会

委員長	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
副委員長	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
委員	寺田 達也	ひの社会教育センター地域コミュニティ部 次長
委員	鈴木 千琴	済生会横浜市東部病院
委員	稲垣 尊仁	森・濱田松本法律事務所 弁護士
委員	徳田 真彦	大阪体育大学体育学部 講師

(公3)研修・研究委員会

委員長	野口 和行	業務執行理事 / 慶應義塾大学 教授
副委員長	青木 康太郎	國學院大学 教授
委員	中丸 信吾	日本女子体育大学 准教授
委員	熊澤 桂子	東京教育専門学校 専任講師
委員	佐藤 冬果	東京家政学院大学 助教
委員	石川 大晃	(一社)地域・社会子育て若者支援 代表理事

(法人事務)総務委員会

委員長	藤枝 隆	業務執行理事 / 東京農業大学入学センター 参与
副委員長	吉松 誠一郎	佐賀県キャンプ協会 副会長 / (株)マベック
委員	神崎 清一	日本キャンプ協会 顧問 / 京都府キャンプ協会 会長
委員	神谷 稔	(公財)日本アウトワード・バウンド協会 理事

(法人事務)ブロック連携委員会

委員長	藤枝 隆	業務執行理事 / 東京農業大学入学センター 参与
副委員長	下川原 清貴	北海道キャンプ協会 常任理事 / (特非)コミュニティワーク研究実践センター 副センター長
委員	佐藤 誠	北海道・東北ブロック理事 / (一社)宮城県キャンプ協会 会長
委員	佐藤 繁一	関東ブロック理事 / (特非)東京都キャンプ協会 理事・事務局長
委員	田丸 千佳	中部・北陸ブロック理事 / 石川県キャンプ協会 事務局長
委員	三木 秀人	近畿ブロック理事 / 兵庫県キャンプ協会 副会長
委員	小椋 聖也	中国・四国ブロック理事 / 岡山県キャンプ協会 事務局長
委員	村上 彰一	九州・沖縄ブロック理事 / 長崎県キャンプ協会 理事長

(法人事務)役員候補者選考委員会

委員長	小田 原一記	監事 / (公財)日本レクリエーション協会 専務理事・事務局長
委員	星野 敏男	外部委員 / 明治大学 名誉教授
委員	神崎 清一	正会員 / 京都府キャンプ協会 会長
委員	高見 彰	正会員 / 関西国際大学 教授
委員	依田 智義	事務局長

(法人事務)正会員候補者推薦委員会

委員長	井上 透	外部委員 / 岐阜女子大学 教授
委員	平野 吉直	監事 / 信州大学 名誉教授
委員	今井 正裕	正会員 / (一財)大阪府青少年活動財団 事業企画室 室長
委員	百武 博文	正会員 / 佐賀県キャンプ協会 理事長
委員	依田 智義	事務局長

役員編成検討タスク

タスク長	藤枝 隆	業務執行理事 / 東京農業大学入学センター 参与
メンバー	高見 彰	日本キャンプ協会 顧問 / 関西国際大学 教授
メンバー	小田 原一記	(公財)日本レクリエーション協会 専務理事・事務局長

国際事業検討タスク

タスク長	青木 康太郎	國學院大學 教授
メンバー	針ヶ谷 雅子	明治大学 非常勤講師
メンバー	柳下 史織	(公財)東京YWCA
メンバー	岡田 成弘	東海大学 准教授

資格制度検討タスク

タスク長	吉田 理史	(株)SOUPスタッフ / (一社)SATOYAMAそだち 代表理事
メンバー	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学 非常勤講師
メンバー	中村 正雄	業務執行理事 / 大東文化大学 教授
メンバー	渡邊 仁	筑波大学 体育系 助教

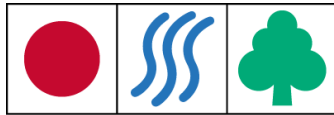
公益社団法人日本キャンプ協会 職員

事務局長	依田 智義
事務局次長	秋山 千草
主 事	松橋 由起
主 事	蒲 健吾
主 事	黒川 裕也
主 事	木下 真理子

静岡県立朝霧野外活動センター 職員

所 長	井出 暢一
副 所 長	齋藤 祐幸
コーディネーター	太田 正義
事業課長	櫻井 良樹
指 導 職	向島 克明
指 導 職	立林 雅貴
指 導 職	北條 友加里
指 導 職	西原 健太
指 導 職	田邊 佳穂
指 導 職	伊東 茉耶
パートタイマー	杉山 奈都子
パートタイマー	大崎 健太

(2025年3月31日現在)



NCAJ

National Camping Association of Japan

〒151-0052

東京都渋谷区代々木神園町3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

TEL:03-3469-0217 FAX:03-3469-0504

E-mail:ncaj@camping.or.jp

URL:<https://www.camping.or.jp>